

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	大川 貴子	福祉	H2301029
	③	望月 俊彦	福祉	H2401035
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	三宿小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	154-0005		
	所在地	世田谷区三宿1丁目12番6号		
	TEL	03-3411-8121		
事業所代表者氏名	事務局長 日高 辰人			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 20 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 10 日			
評価合議日	2025 年 9 月 10 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)命を大切にすること 2)子どもの居場所として楽しいこと 3)自分の意見がちゃんといる場所 4)差別のないこと</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの頭で考え、他の職員と連携する。 ・子どもの利益を最優先にする。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームとしての業務としてとらえ、互いに協力して業務にあたってほしい。

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 75

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	75	0	75
共通評価項目による調査の有効回答者数	27	0	27
利用者総数に対する回答者割合(%)	36.0	0.0	36.0

利用者調査全体のコメント

調査対象者75名のうち、27名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「職員は話し相手や、相談相手になってくれるか」「職員の接遇・態度は適切か」「学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか」「子どもの不満や要望は対応されているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、27名全員が「大変満足、満足」と回答している。また、「友達と遊べて本当に楽しい」「先生もとても優しい」「本を読みたい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	25	1	1	0
25名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「友達と遊ぶのが大好き」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	24	1	0	2
24名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。日常的に職員が子どもの気持ちに寄り添っている様子がうかがえる。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	24	2	0	1

24名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「おやつが好き」「苦手なものが出ることもある」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	12	3	1	11
12名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」、11名が「非該当・無回答」と回答している。また、「話を聞いてくれることもある」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	22	2	1	2
22名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「もうちょっと話が短いといいなと思うこともある」とのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	23	2	1	1
23名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「そこそこ片付いていると思う」とのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	23	3	0	1
23名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。職員の接遇や態度が適切に保たれている様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	23	1	0	3
23名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ケガした際は保護者に連絡してくれる」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	21	3	1	2
21名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「何かあると自分達で解決することも多い」とのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	20	1	1	5
20名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。子どもの気持ちを尊重した対応が行われている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	16	2	0	9
16名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。子どものプライバシーが守られている様子がうかがえる。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	23	2	0	2
23名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。子どもの不満や要望に対応している様子がうかがえる。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	2	3	11
11名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」、11名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	子どもの居場所づくりに向けたわかりやすい方針・目標を掲げている 区が定める7つの目標を基盤としつつ、誰もが理解しやすい形にするため、独自の4つの方針へ集約して周知している。また、年間および学期ごとに方針に基づいた具体的な目標を設定している。これらの目標は、毎月発行する「BOPだより」を通じて保護者や関係機関に伝達しているが、子どもや保護者の認知度が十分でないと考えている。今後は提示方法を工夫し、認知度向上を図っていく意向である。なお、学童クラブと放課後子供教室の利用児童には同一の目標を適用し、すべての子どもが一貫した方針のもとで育成支援を受けられるよう取り組んでいる。	
	地域の様々な情報を取り入れながら、現場の運営に反映させている 事務局長は、児童館長や指導員とは異なる所管でありながら、それぞれの強みを生かした運営ができるよう尽力している。役割は統括管理、備品管理、施設修繕など多岐にわたり、現場の支援業務にも携わりつつ、これまで培ってきた経験を活かして組織運営を支えている。特に、組織体全体の維持・管理を中心に据え、現場をリードする存在として機能している。また、現在は学校主催の学校協議会に参加し、青少年委員会や地域団体、校長、PTA会長などと連携しながら、地域とのつながりを強化する取り組みも進めている。	
	将来的な学童クラブの姿を予測し、今後の運営への指標を設けている 児童館を拠点とした「時間・空間・仲間」を軸にした子どもの居場所として、様々なニーズに対応できる体制を整えている。併設する小学校の児童だけでなく、近隣の特別支援学校の児童も受け入れており、区の7つの目標の一つである「多様な子どもがお互いを尊重し、合理的配慮のもとでともに過ごせる場所」の実現に取り組んでいる。今後も、要配慮・要支援の児童がより安心して通えるよう、職員の専門性を高めるとともに、児童発達支援センターや特別支援学校など関係機関との連携を深めていきたいと考えている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>子どもや保護者の要望を聞き取る様々な仕組みが整えられている</p> <p>行事の際に設置した意見箱が子どもの意見を聞き取る有益な取り組みであったことから、現在は「夢ポスト」として常設し、子どもの声を日常的に収集・活用している。保護者からの要望は、お迎え時の会話を通じて聞き取り、職員間で共有したうえで対応している。また、区では早くから長期休暇中の昼食提供体制を整備しており、これは保護者の要望を反映させた具体的な例となっている。さらに、行政への要望や苦情がスムーズに伝達・対応できる仕組みが整っており、保護者だけでなく地域住民の声も運営に反映される体制が確立されている。</p> <p>利用希望に対する職員体制構築を課題としており、充実に向けて取り組みを進めている</p> <p>少子化傾向にあるものの、共働き世帯の増加などにより学童利用率は高水準で推移している。来年度入学予定児のうち半数程度は学童を利用すると推測され、今年度水準を大きく下回ることはないと予想される。また、特別支援学校からの利用児童も増加しており、今後も一定の需要が継続すると考えられる。一方で、放課後等デイサービスは地域内に複数存在するものの、利用が確保できない場合には公設学童を利用するケースが多い。公設学童がその受け皿となる中で、安全確保や遊びの充実に加え、支援体制や人員配置の強化が今後の課題となると予測している。</p> <p>区内の地域における様々な課題を抽出・検討する仕組みが整えられている</p>		

区では課題検討委員会が年2回開催され、児童館や学童クラブを含む区内の子どもの居場所について多角的な検討が行われている。委員会での検討結果は、児童館館長会議や事務局長会議に共有され、相互に議論・検討できる仕組みが整えられている。地域や環境によって課題の内容が異なることから、児童館長や事務局長は区内全体の幅広い情報を共有し、適切な対策を講じる体制となっている。地域ごとの実情を踏まえ、様々な意見を集約して意思決定を行うことで、課題解決が効果的かつ効率的に進められている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ3の講評

不適切な支援とならないよう、組織的に権利擁護意識の醸成を図っている

事務局長を中心に、指導員やプレイングパートナーとともに、子どもの権利擁護に関する共通認識を日常の成育支援の場から共有できる職場環境づくりをしている。子どもの行動への対応においては、言葉遣いや身体的接触などが第三者から不適切と受け取られないよう、職員同士で相互に声をかけ合っている。また、ミーティングを通じて共有することで、全体としての意識向上を図っている。外部で生じる要因による子どもの変化に気づきがあった際には、区の子ども権利擁護委員「せたホッと」と連携することで、包括的かつ継続的な支援体制を構築している。

今後予想されるニーズにおいて、クラブや区としての見解を整理している

クラブでは、お迎え時に保護者から日常的に意見や要望を聞き取り、翌日のミーティングで共有し対応している。今後は、区内に限らず全国的にも長期休暇期間の始業時刻を早めてほしいという要望が高まることを想定している。これに対応するためには、急な延長や早朝対応にも柔軟に対応できる職員体制の確保や調整が不可欠である。現状では、業務スケジュール上、延長保育担当者が職員全体の情報共有の場であるミーティングに参加できず、情報不足によるリスクも懸念される。今後は危機管理体制を含めた運営体制の見直しが課題となっている。

地域における学童クラブの在り方を新たに作っていく意向である

コロナ禍を経て、地域住民同士の交流機会が減少したことで、町会における住民間のつながりや把握が希薄化している状況となっている。一方、学童クラブの会計年度任用職員やプレイングパートナーは近隣住民であることが多く、地域の状況を把握しやすい立場にある。このことは、地域の情報を収集する上で大きな強みとなっているが、学童クラブ内部にとどまり、地域全体とのつながりには十分に活かされていない状況にある。今後は、地域住民が気軽に関わられる場づくりや、互いに顔の見える関係を築くための仕組みづくりの必要性を感じている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>子どものケガを未然に防止するため、綿密な職員配置が毎日行われている</p> <p>子どもの安全、特にケガの防止を最も重要なリスクとして捉えている。そのため、日常的な見守りや声掛けを徹底し、子ども一人ひとりに配慮した体制づくりをしている。具体的には、毎日の職員配置を事務所内のホワイトボードに掲示し、担当を一目で確認できるようにしている。また、要支援児童に対してはブレイングパートナーがマンツーマンで寄り添い、その日の様子を事業所独自の記録用紙に丁寧に記録している。これらの記録はミーティングで読み上げられ、子どもの状況や変化を職員全体で共有し、職員配置の見直しに活かしている。</p> <p>今後は学童クラブ独自の事業計画作成への検討がされることに期待したい</p> <p>災害発生時には、児童の安全確保を最優先とし、授業後の学童クラブ活動中であっても、まずは児童を一旦学校に戻すことで、保護者が迎えに行く場所を明確にする体制が整えられている。また、災害時対応や不審者対応の合同訓練を行い、連携強化を図っている。一方で、学童クラブ単独での事業継続計画(BCP)は未策定であり、特に学校の長期休みに大規模災害が発生した場合を想定した対応が課題として残されている。今後は、子どもの安全確保を最優先に据えつつ、災害後の事業再開に向けた手順等を明確にした計画を策定していくことに期待したい。</p> <p>事故防止に向けた各学童クラブの連携に向けて検討を図りたい意向である</p> <p>児童館長会議や事務局長会議を定期的に行い、その中で各学童クラブにおける事故報告を共有している。重大事故が発生した際には臨時会議を開き、迅速に情報共有を行う体制が整えられている。事務局長は、今後の事故防止に向けて、現場間で注意すべき点、危険個所の洗い出しなどを共有する機会を増やす必要性を認識している。特に、各学童クラブが連携し、現場を担う指導員同士が直接情報交換できる場を設けることで、より実践的で効果的な事故防止策の検討につなげていきたいと考えている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ5の講評

次世代を担う職員育成に向けて、地域のニーズに応じた採用と育成に取り組んでいる

職員体制における世代構成と人材確保を課題として挙げている。現場ではベテラン職員が多く、他の福祉業界全体と同様の傾向が見られる。若手人材の確保と育成の魅力として、学童クラブ内に新たな遊びや発想が生まれることもあり、今後も採用面では注力していきたいと感じている。また、専門的な知識を持った指導員により、制度面や専門知識が会計年度任用職員やプレイングパートナーに伝わる強みさらに活かしていきたいと考えている。今後も、賃金や働き方の魅力を高め、若手が定着できる環境づくりをしていく方針である。

実践的な研修を通して、組織全体で積極的な学びに取り組んでいる

研修は、事業所からの提案と職員からの要望の双方により実施されている。研修情報はメールで共有され、既受講者が内容を伝えることで未受講者が選定の参考としている。また、研修報告はミーティングで要点を共有し、実践に活かせる内容に重点を置く発表を心掛けている。必須研修として「児童指導員基礎研修」を全員が受講しており、発達障害児への対応など現場課題に即した研修も推奨されている。研修に積極的な職員が多い一方で、消極的な職員に対しては組織全体で受講を促し、研修受講に積極的な職場環境の定着を図っている。

人材の入れ替わりが予測される中で、良好な職場風土を維持していく方針に期待したい

職員相互のレスpektと信頼が、クラブにおけるチームワークにつながっている。日々の運営では事務局長の采配が大きな役割を果たしており、良い点は積極的に共有し、課題点は率直に指摘し合う文化が根付いている。また、ミーティングでは忌憚のない意見交換が行われ、信頼関係に裏打ちされた健全な組織風土が形成されている。一方で、今後、組織をまとめていく次世代人材の育成が必要と思われる。多様な経験を持つ人材が事務局長となる現状を踏まえ、職場風土を継承するための方針を検討していくことに期待したい。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

- ①元気に進んで活動する子ども
 - ②仲良く協力する子ども
 - ③きまりを守って安全に活動する子ども
- 子どもの創造性・自主性・社会性を養う育成目標を定め、具体的な遊びを提供することとした。

【取り組み】

- ①の目標には、運動遊びのイベントを企画し、1年間を通してアスレチックサーキット、ドッジボール、マラソン、一輪車検定を実施した。
- ②の目標には、子ども祭りを開催しその中でお店屋やゲーム、ダンス等、子どもが希望に沿った企画を実践し、子どもたちが自ら遊びを創出できる環境をつくった。

【取り組みの結果】

運動遊びでは子どもたち同士でルールを意識し、協力関係を築く様子が見られた。子ども祭りでは、お店のスタッフや景品の作成など、企画の運営側に積極的に関わる様子も見られた。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度は、子どもたちの興味や関心を広げ、コミュニケーション能力や実践力を育むことを目的に、さまざまな行事や活動を展開した。日常では、伝承遊びを取り入れ、技ごとに級を設けた検定を実施し、段階的に挑戦できる仕組みを整えた。これらの活動を通じて、子どもたちが成功体験を重ね、自信を持ってステップアップしていくことを目指している。今後は、日常的に遊びや活動に取り組める環境整備をさらに進めるとともに、『夢ポスト』など新たな取り組みも導入し、子どもたちの自己表現や実践力のさらなる向上を図っていく意向である。

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>【課題・目標】 学期ごとに成長できるよう、集団生活を意識した目標設定をし、子どもたちに伝える。</p> <p>【取り組み】 1学期は学童クラブのルールを知り、遊ぶこと。2学期はイベントを通して協力関係を築くこと。3学期は戸外での運動遊びを積極的に行うこととした。</p> <p>【取り組みの結果】 1年生の成長を焦点にした取り組みであったが、2年生や3年生にもその目標を達成するためのサポートや異年齢間の関わりにおいて重要な取り組みであることに気づくことができた。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>1年生の成長段階を学期ごとに目標として明確化し、その達成に向けた活動や遊びを計画的に提供した。遊びを通して、社会性や自主性、ルールの大切さを段階的に学べるよう支援し、2年生に進級するまでに子どもたちが自ら考え、行動できる力を育むことを目指した。この取り組みは1年生に留まらず、2年生や3年生、さらに学童クラブを卒業した上級生にも良い影響を及ぼし、遊びの幅や子ども同士のつながりが広がる結果となった。今後は、他学年にもそれぞれの成長段階に応じた目標を設定し、より一層、子どもたちの自主性と社会性を育むことを目指して取り組みを進めていく方針である。</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>複数の媒体を活用し、保護者と子どもに確実に分かりやすい情報提供を行っている</p> <p>学童クラブでは、子どもや保護者に向けた情報提供を複数の媒体で行っている。日々の活動や行事などは「ポップだより」として毎月発行し、実施報告や予定を分かりやすく伝えている。また、長期休暇前には「学童クラブだより」を発行し、持ち物や生活上の留意点、個人面談や保護者会の日程など重要な情報を周知している。さらに、必要に応じて子どもを通じた連絡や個別連絡も活用し、家庭に確実に情報が届くよう工夫している。これにより、保護者が学童クラブの活動や方針を理解しやすく、子どもの生活を安心して預けられる体制を整えている。</p> <p>子どもや保護者に配慮し、表記や説明方法を工夫して内容を分かりやすく伝えている</p> <p>学童クラブでは、子どもや保護者の特性を踏まえ、情報提供の表記や内容に分かりやすさを工夫している。子ども向け便りでは、習得済みの漢字はそのまま用い、未習の漢字にはルビを振るなど配慮している。保護者向けには、写真や実物を活用した説明会を開催し、活動の様子を具体的に伝えている。また、案内資料を通じて活動や日課、持ち物の工夫点を盛り込み、理解しやすい内容に整理している。さらに、発表会や展示を通じて日常の活動成果を視覚的に示し、子どもや家族に学童クラブの生活を身近に感じられるように取り組んでいる。</p> <p>保護者の要望や児童の状況に応じて柔軟に対応し、安心できる支援体制を整えている</p> <p>学童クラブでは、入所希望者の見学を随時受け入れるほか、医療的ケアを要する可能性がある児童については保育園を訪問し、ケース会議にも参加するなど、個別の状況に応じた対応を行っている。また、保護者からの問い合わせや要望には、担当職員が窓口となり記録を残し、事実確認を経て館長や職員間で協議し、必要に応じて児童課へも相談している。そのうえで、改善策や再発防止策を整理し、誠意をもって対応する姿勢を大切にしている。これにより、保護者の理解と信頼を得ながら、子どもの安心につながる支援体制が整っている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保護者の質問や不安に丁寧に対応し、健康情報を記録化して安全な利用につなげている</p> <p>学童クラブでは、区が作成する募集案内や資料を基に、募集期間や申請手続き、必要書類などの基本的ルールを保護者へ丁寧に説明している。入会前には説明会や見学の機会を設け、利用開始後の生活の流れや延長利用、負担金、減免制度などの具体的な内容についても理解が得られるよう工夫している。不明点があれば随時質問できる体制を整え、特に新一年生の保護者には不安や疑問に個別に応じている。また、健康状態やアレルギーの有無などを申請書や面談で確認・記録することで、子どもと保護者の意向を把握し、安全な利用につなげている。</p> <p>サービス開始直後には名札や迎いで不安を和らげ、友達づくりにも配慮して支援している</p> <p>学童クラブでは、利用開始時に子どもの基本情報や緊急時の連絡体制、健康状態等を申請書や面談を通じて把握し、児童票に記録して職員間で共有している。特に、新一年生は環境の変化に不安や戸惑いを抱くため、入会直後の一定期間は職員が昇降口まで迎えに行き、名札を活用して確実に来所を確認するなどの配慮を行っている。また、集団下校や門の利用方法を保護者と確認し、安全に登下校できるよう支援している。さらに、初期の不安軽減に向け、個別の声かけや友達づくりの工夫を行うことで、安心して利用できる体制を整えている。</p> <p>利用前の生活を踏まえ安心感に配慮し、子どもの成長を支える継続的な支援を行っている</p> <p>学童クラブでは、子どもが利用を開始する前に、必要に応じて保育園を訪問したり学校を通じて生活状況や特性に関する情報を把握し、入会後の様子を見守っている。集団生活や遊びの場面での様子から職員が気付いた事柄を参考に、子どもたちが安心して生活できるよう配慮を検討し、具体的な支援につなげている。個別の目標設定までは行っていないが、学期ごとに設定されるクラブ全体の育成目標に照らして子どもの成長を確認している。こうした取り組みにより、年1回の振り返りを通じて利用前の生活や成長の様子をふまえた支援を継続している。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

7/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(○○●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(○○●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
○あり ●なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

子どもの主体性を重視し、職員と共に目標を意識化する仕組みづくりが期待される

学童クラブでは、区の運営方針に沿って学期ごとの目標を設定し、季節の行事を盛り込んだ年間計画を作成している。目標は職員が定めつつ子ども自身にも書いてもらう工夫があり、全員の目標としての意識化する積極的な取り組みが見られる。運営方針や計画は職員全員が参加するロングミーティングで確認・共有され、行事の振り返りも行われている。また、日々のミーティングでは、生活や遊びの気づきや課題を出し合っている。今後はこうしたミーティングで出された内容を、年間の目標や計画の見直しに反映できる仕組みづくりが期待される。

子どもや保護者の意向を反映した年間目標や、計画の見直しの取り組みが期待される

学童クラブでは、年度初めに年間目標や計画を職員間で確認している。不安定な子どもの様子や心配される行動はミーティングで共有し、日誌や記録に残している。改善策を話し合い実行した後、その効果を確認しながら最善の方法を検討し支援につなげている。保護者には面談や送迎時に子どもの成果や良い変化を伝え、運営や支援への理解を得る工夫をしている。今後は、こうした取り組みを生かし、学期の目標や年間計画の見直しのプロセスに、子どもの意向や成果、保護者の機会や意向を反映する機会を組み込みいれて見直ししていくことが望まれる。

職員の記録を組織的に集約・統合し、共有の質を高める体制づくりが期待される

学童クラブでは、児童票や個人ファイルを整備し、子ども一人ひとりに関する必要な情報を記録・保管するようにしている。子どもの様子を局長が記録したメモの内容や他の職員が気付いた情報を日々のミーティングで確認し、日誌に集約する仕組みを整えている。また、局長の記録のメモは、ファイリングされ保管している。一方で、他の職員による記録様式が統一されていない、あるいは既存の記録ノートが継続的に活用されていない面がうかがえる。今後は、職員による記録を組織的に集約・統合し、共有の質を高める体制づくりが期待される。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>保護者同意の徹底とプライバシー尊重を基本に、子どもの主体性を大切に支援している</p> <p>学童クラブでは、子どもに関する情報を外部とやりとりする際には必ず保護者の同意を得ており、年度初めには守秘義務や個人情報保護のルールを職員全員で確認している。退職後の秘密保持については、一部伝えられているが、十分に周知されているとは言えず今後の課題である。記録は施錠保管や不要書類のシュレッダー処理により適切に管理されている。子どものプライバシーにも配慮し、友人関係の相談では、子ども同士で解決したい気持ちを尊重し、保護者と職員が協力して見守るなど、主体性を大切にした援助が実践されている。</p> <p>個々の特性に応じた対応と子どもの意見を尊重し、主体性を育む支援を行っている</p> <p>学童クラブでは、日常の支援において子ども一人ひとりを尊重する様子がうかがえる。トラブルが生じた際には、感情が高ぶった子を一時的に場から離し、クールダウンの時間を設けてから気持ちを丁寧に引き出すなど、個々の特性に応じた対応を行っている。また、帰宅前の時間を落ち着いて過ごせるよう、子どもたちの意見を取り入れ、活動的な遊びから静かな遊びや宿題の時間へと切り替える工夫をしている。また、ルール作りを話すプチ子ども会議の設定も行っている。これらの取り組みにより、安心できる環境を整えながら主体性を育む支援を行っている。</p> <p>多様な価値観や生活習慣に配慮し、安心できる居場所を提供している</p> <p>学童クラブでは、子どもや保護者の多様な価値観や生活習慣に配慮した援助が行われている。外国にルーツを持つ家庭への支援では、言語や文化の違いから誤解が生じないように、できる限り対面で報告や説明を行い、直接伝える工夫をしている。その場で理解度を確認しながら補足説明を行うことで、安心感を得られるように配慮している。また、ジェンダーや食習慣など個々の背景に関わる領域についても、子どもの感じ方を尊重し、必要に応じて対応を工夫している。こうした取り組みは、誰もが安心して利用できる居場所づくりにつながっている。</p>		

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
事故対応や安全対策を含む手引書とマニュアルを整備し、実践的に活用している 学童クラブでは、サービス提供に必要な手引書やマニュアルを整備し、事業所としての基本事項や手順を明確にしている。スポーツ安全協会が発行する標準的なマニュアルに加え、独自に作成した安全対策や事故対応の手順を備えている。さらに、怪我や事故時の記録フォーマットや電話対応、嘔吐やアレルギー対応など場面別のマニュアルを現場に配置し、職員が即時に確認し活用できる体制を整えている。対応後は掲示病院への連絡や通院手続、子ども同士のトラブル時の記録など、経過を時系列で整理できるフォーマットに記入し活用している。	
使いやすい手引書の提示や安全確認欄の活用を通じて、随時、点検・見直しを行っている 学童クラブでは、サービスの提供に関する手順を適宜見直すように努めている。実際に運用する中で不都合が生じた際には、その都度修正を行い、現場に即した改善を重ねている。また、日誌には設備に関する安全確認欄が設けられ、日々の業務の中で自動的に安全点検が組み込まれ、実効性の高い取り組みを行っている。さらに、職員はわからない事案が発生した際に、その場で手引書やマニュアルを参照し、実際の活用の効果を確認するようにしている。これにより、マニュアルが形式的な存在にとどまらず、日常的に活用される仕組みとして機能している。	
振り返り結果をマニュアルに反映し、危険回避と業務標準化の一層の推進が期待される 学童クラブでは、年度末の振り返りや年始の計画見直しを通して、事業の目標や活動内容を確認し、年度の重点項目を検討している。日常の支援では、アクシデントの報告内容やメモを共有し、ミーティングで改善策を話し合うなど、職員全体で危険予測の意識を高めている。しかし、手順書が活用場所に掲示されているのみで、蓄積された共有内容を体系的に確認できる仕組みが十分ではない。今後は、年度切替時の総点検などを活用して、振り返り結果を業務マニュアルなどに反映させることで、危険回避と業務標準化の一層の推進が期待される。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 29/29
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
評価項目1の講評	
<p>子どもの人数や子どもの特性等を尊重しながら職員体制を整え、日々の育成を行っている</p> <p>在籍児童の年齢や発達の違い、生活環境を尊重しながら、集団生活の中で子ども同士が良好な関係性を築けるよう配慮されている。配慮が必要な子どもが多く出席する日には、臨時職員の配置を工夫するなど柔軟な体制を整え、個別の支援が行き届くよう工夫されている。また、職員の休暇が重ならないよう調整することで、安定した支援体制を維持している。日々の記録を通じて子どもの様子を把握し、職員間で情報共有を図ることで、子どもの特性に応じた援助が行われている。今後は、子どもの記録を統一した書式で管理することが期待される。</p> <p>異年齢交流を促す活動を通じて、子ども同士の関係性と協力の姿勢を育てている</p> <p>異年齢の子ども同士が自然な形で関わりを持てるよう、集団遊びの時間を設けている。外遊びでは体を動かす遊びや、猛暑で外遊びができない時は室内ではじゃんけん列車やハンカチ落としなどを取り入れ、1年生から6年生まで関われる遊びを職員主導で行っている。孤立しがちな高学年も楽しめ、年下の子も上の子を慕う関係が生まれている。お祭りなどのイベントでは異年齢でグループを構成し、お互いを認めながら協力し合う経験を通じて、子ども同士の関係性を豊かに育んでいる。小学校での異年齢集団の関わりを重視する方針とも連携している。</p> <p>子ども同士のトラブルには職員が子どもの意見に耳を傾け、気持ちの整理を促している</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対しては、職員が子どもの意見に耳を傾け、静かな場所に移動する等、感情の高ぶりを和らげ、子ども自身が気持ちを整理できるようにしている。障害のある子どもや発達面で特に配慮が必要な子どもに対しては、否定せず受け入れる姿勢を基本としている。臨床心理士による巡回相談時では、全職員に向けた配慮児との関わり方についての助言があり、参考になっている。イヤーマフの使用や「安心ボックス」という子どもが落ち着ける物が入った箱を用意し、個々のニーズに応じた具体的な支援が実施されている。</p>	
<p>2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している
評価項目2の講評	
<p>自主性を育む環境づくりと遊びの工夫により、子どもが集団に参加できるようにしている</p> <p>子ども一人ひとりの自主性や自発性を尊重し、児童期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、日常の援助を通して環境の工夫がされている。遊びの場面では、子どもが自ら選択しやすいように、おもちゃ類が整理され、取り出しやすく配置されている。ままごとコーナーや、子どもがやりたい遊びができるような空間も整備されている。おもちゃの選定では、安全面と難易度を考慮し、集団で楽しめるものを選定している。子ども同士の関わりを重視し、孤立しがちな子どもには職員が積極的に声をかけ、自然な形で集団に参加できるよう支援している。</p> <p>子どもたちに主体的な参加を促す遊びやイベントを展開し、創造性と達成感を育てている</p> <p>子どもが主体的に集団活動へ関われるよう、魅力的なイベントや集団遊びを実施している。年間行事活動の遊びでは「メンコ」「製作」「室内」「屋外」の項目があり、毎月のようにそれぞれの遊びが行われている。年齢や子どもたちの希望に応じた創造性を育む機会となっている。特にメンコは力を入れており、年間を通して作成、メンコ競技大会、コンクールなど何回も行われている。完成した作品を職員に見せて褒められることで、子どもたちは達成感を得ている。職員はより多くの子どもが集団遊びに魅力を感じられるよう、研修を実施したいと考えている。</p> <p>持ち物管理や生活習慣の指導を通じて、子どもたちが自立できるよう支援している</p>	

持ち物の自己管理に関しては、ロッカーの個人使用をやめ自由に使用方法を導入している。1年生や配慮が必要な児童は専用ロッカーを使用する一方、2・3年生には記名のないロッカーを自由に使用することになっている。荷物の持ち帰りを促し、自己管理の意識を高めている。仲良しの友達と並べて荷物を置くこともできる。この取り組みにより忘れ物が減少するなど、具体的な成果も確認されている。また、手洗い指導などの基本的な生活習慣についても徹底されており、子どもたちが日々の生活の中で自立心を育みながら成長できる環境が整えられている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p>年間計画に基づき行事を実施し、子どもの創造性や社会性等を育む機会を提供している</p> <p>新BOPでは、年間を通じて多彩な行事が計画的に実施されている。年間計画書に基づき、4月の「新しい友達を迎える会」から始まり、制作活動や室内・屋外遊び、こま検定やTボールなど、子どもたちの興味関心を引き出す内容が盛り込まれている。また、フェスタや児童館まつりといった地域との連携イベントも行われており、子どもたちの社会性を育む機会となっている。メンコ作りは年間を通じて継続的に取り組まれ、創造性や手先の器用さを養う活動として定着している。七夕やひな祭りなど季節感を大切に行事も実施されている。</p> <p>子ども意見を重視した行事づくりを通じて、創造性と地域交流を深めている</p> <p>毎年10月に行われる児童館まつりでは、子ども会議での子どもたちの意見をもとにゲーム屋やダンス発表を実施した。12月には「フェスタ」というBOPまつりが開催され、子どもたちが希望する発表やお店を展開するなど、自らのアイデアを形にする経験が提供されている。「まちなか作品展」は、児童館職員が来所して子ども達に絵の描き方を教える機会があり、完成した絵を出品した。大きな絵は地域の方々から好評を得て子どもたちの満足度につながった。子ども達にとって意見を出し合いながら行事を作り上げていくかけがえのない経験となっている。</p> <p>保護者との連携を図りながら、子どもの意欲と満足感を高める行事運営が行われている</p> <p>新BOPでは、子どもが意欲的に行事等へ取り組めるよう、保護者の理解と協力を得るための工夫がされている。行事のお知らせは学童だよりや学童クラブ室前のポスター掲示、保護者会で周知されている。行事には職員だけでなく保護者も参加し、手伝いを通じて子どもたちの様子を直接見ることができる機会となっている。保護者の感想はお迎えの時や個人面談の時に聞き取り面談記録に記録され、口頭での感想や喜びの声は日誌や報告書に記録されている。行事の後には子どもたちから「またやりたい」「次はお店屋さんをやりたい」等の感想があがっている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		○非該当
評価項目4の講評			
<p>子どもの主体性と安心感を大切に環境整備が行われ、支援体制が整えられている</p> <p>子どもが自ら進んで学童クラブに通いたいと思える環境づくりや、登室時の温かい出迎え、季節ごとのイベントの実施など、日常の中に楽しみや期待が持てるよう取り組んでいる。子どもが「やりたい」と思ったことをできる限り実現できるよう、遊びの内容や環境の整備にも柔軟に対応しており、相談しやすい雰囲気を作られている。新1年生に対しては育成室の使い方やトイレの使い方など案内し、遊びを体験して慣れてもらうよう配慮している。職員は毎日のミーティングで振り返りを行い、それぞれが意見を発表し改善点など出し合っている。</p> <p>子どもたちが一日の流れを把握しながら、学童での生活の見通しを持てるようにしている</p> <p>勉強や朝の会、昼食、間食など、生活時間が明確に区切られている。また、掲示や「BOPだより」「学童クラブだより」などを通じて、子ども自身が一日の流れを把握しやすい環境が整えられている。遊具類は子どもの目線に合わせて整理され、色別やひらがなを用いた収納法により、子どもが自ら選びやすいよう工夫されている。座卓のあるスペースと遊び場が分けられていることで、おやつ時間も落ち着いて過ごせるよう工夫されている。イベントのポスターも分かりやすく掲示されており、子どもたちが見通しを持ち、楽しみにする様子が見受けられている。</p> <p>新BOPの運営体制により、子どもたちが安定した居場所として通い続けられている</p> <p>新BOPでは放課後子供教室と学童クラブとの一体型の運営を行っている。学童クラブは3年生までの利用となっているが、放課後子供教室には全校児童の約6割が登録しており、1～3年生のうち毎日10人程が参加している。新BOPの活動プログラムは共通しているため、子どもたちは内容を理解しやすく、安心して参加できている。学童クラブを休日もBOPを利用でき、子どもたちは一緒に遊び、活動を通じて交流を深めている。行事も共通で実施され子どもたちの楽しみや期待感が育まれている。4年生以上の子は主に行事への参加が中心となっている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との連携を重視し、情報共有を通じて子どもが安心して過ごせる体制となっている</p> <p>新BOPでは学校との連携を重視した支援体制が整えられている。副校長とは教室の借用や設備面に関する調整を行い、学校行事や工事の予定に合わせた柔軟な施設利用が可能となっているほか、担任や養護教諭とは児童の体調や日々の様子について細かな話し合いが行われ情報共有されている。学校との連絡協議会を年2回開催し、学童クラブの活動内容や課題について学校関係者や地域関係者と意見を交わし新BPOへの理解を深めてもらっている。学校生活と学童クラブでの生活が途切れることなくつながり、子どもが安心して過ごせる環境が確保されている。</p> <p>不登校などの子どもに対し、学童クラブがその子の居場所となるよう受け入れている</p> <p>不登校などの課題を抱える子どもに対しては、学校や教育委員会と協議し学童クラブがその子の居場所として受け入れることもある。学校と継続的に情報を共有しながら、子どもの気持ちに寄り添った援助が行われている。年度初めには担任と学童クラブ名簿を共有し、個々の児童の状況を把握するための話し合いが実施されており、配慮が必要な子どもについては随時相談できる体制が整っている。担任が学童クラブ室に立ち寄るなど、日常的な関係性も良好であり、学校生活との連続性が保たれている。日誌や個人記録を通じて支援の質を高める努力も見られる。</p> <p>小学校や関係機関と連携し、障害のある子や配慮が必要な子どもへの支援を行っている</p> <p>障害のある子どもや、発達面・養育環境において特別な配慮が必要な子どもに対しては、教育機関、福祉関係機関、医療機関などの関係機関と連携しながら支援を行っている。保育園とは、担任が学童クラブを訪問し、子どもの様子や特性について情報共有を行い、学童クラブでの支援に活かしている。小学校とも、子どもの状況を踏まえた綿密な情報共有が行われており、支援の方向性について話し合いが重ねられている。子どもの成長や発達を支えるために日々の記録を取り、支援学級・通常学級の担任と連携を深めながら支援を継続している。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつ時の安全面に配慮し、環境を整え安心しておやつを楽しめる体制が整えられている</p> <p>おやつ時間はBPO室を半分に分け、学童のおやつスペースとBOPの遊びのスペースを区分することで、落ち着いて食べられる空間が確保されている。アレルギーや特に配慮が必要な子どもに対しては、座卓に予約席の表示を行い、安心して座れるよう工夫されている。また、子どもの来所時間やイベント参加、家庭での夕食時間を考慮し、おやつ提供時間や内容、量に柔軟な対応がなされている。担当職員が常時配布場所に立ち会うことで、誤配を防ぎ、子ども一人ひとりに適切なおやつが提供される体制が整っている。</p> <p>子ども達に多様なおやつをバランスよく提供し、楽しい時間となるよう工夫している</p> <p>区の指定業者から届けられるおやつには、クッキーやせんべいなどの菓子類、くだもの、ジュースなどの飲み物、アメリカンドック、おにぎりといった調理品まで幅広く取り揃えられており、子どもの嗜好や栄養面に配慮した構成となっている。味が分かりにくいものについては試食を用意し、子ども自身が選択できるようになっている。黒板にはイラスト付きで当日のメニューが掲示され、視覚的にも興味を引く工夫がなされている。お菓子の並べ方にも見た目の美しさや楽しさを演出することで、子どもが落ち着いておやつを楽しめる環境づくりが行われている。</p> <p>アレルギーがある子どもに対しては、複数の確認作業を行い安全面に十分配慮している</p> <p>新BOP入会申請書にはアレルギーに関する記載欄が設けられており、保護者からの申し出をもとに面談を実施し、アレルギーの種類や使用薬剤などの詳細な情報を把握している。該当する子どもには個別のトレイでおやつを提供し、職員が子どもの食べている様子を確認できるようにしている。市販品は原材料を搬入時と提供前に職員が読み合わせで行っている。アレルギーチェック表を活用して複数人で確認する体制が整えられており、事故防止に向けた取り組みが行われている。子どもの健康と安全を守り保護者の信頼にもつながっている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>学童クラブの安全管理を徹底し、子どものけがなどを未然に防ぐ取り組みが行われている</p> <p>手洗い指導をはじめ、熱中症予防のための持ち物確認や水分補給の声かけが実施されており、衛生面と体調管理への意識づけが図られている。また、地震や火災時の対応については掲示物を活用し、子どもたちに分かりやすく伝えている。遊びの場面では、児童一人ひとりの動きを予測し、けがの予防につながる遊びの提案や職員の配置が工夫されており、滑りやすい場所や室内での走行などには注意を促す体制が整っている。過去のけがの事例を子どもに伝え注意喚起を行い、帰宅時には学校の門まで見送りを行うなど、安全確保への取り組みも徹底されている。</p> <p>子どもの体調不良時の対応や感染症情報の共有により、安心して過ごせよう支援している</p> <p>子どもが自らの健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう支援する体制が整えられている。日々の活動の中で、具合が悪くなった際には職員に伝えるよう子どもたちに周知しており、職員も子どもの顔色や様子を見て、体調不良が疑われる場合には声をかけて対応している。必要に応じて、事務室内のカーテンで仕切られたスペースに簡易ベッドを設置し静かに安心して過ごせる配慮がされている。また、小学校とは感染症に関する情報交換も行われており、集団生活における健康管理の面でも適切な対応が図られている。</p> <p>多機関との連携により、医療的ケア児が安心して過ごせる支援体制が整えられている</p> <p>新BOPでは、医療的ケアが必要な子どもも受け入れており、心身の健康を維持するための支援体制が整っている。受け入れの前には小学校・保育園・医療機関等と連携したケース会議に学童クラブの職員も参加し、専門的な支援に関する注意点や、子ども一人ひとりに応じた具体的な対応方法について情報を共有している。また、児童課や保護者との連携も密に行い、日々の体調や生活の変化に応じた柔軟な対応を行っている。保護者や多機関との連携により、医療的ケアが必要な子どもが安心して学童クラブでの生活を送れる環境が整備されている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の事情に応じた対応と関係機関との連携により、安心と信頼を築く支援をしている</p> <p>学童クラブでは、育成支援計画を文書化してはいないが、学期ごとに目標を立て、保護者の子育てや就労等の事情を踏まえた柔軟な支援を行っている。入所時には家庭の状況を把握し、病気や産休明け、緊急入院など特別な事情がある場合には、面談や電話連絡を通じて丁寧に対応している。養育に不安を抱える家庭には気持ちを受け止め、情報を分かりやすく伝える工夫を行い、必要に応じて関係機関と連携し、継続的な見守り支援を強化している。こうした取組により、保護者の安心と信頼を得ながら育成支援を進めている。</p> <p>保護者会を活用と父母会の活動を支え、保護者の交流と相互理解につなげている</p> <p>学童クラブでは、保護者同士が交流できる機会として、引き取り訓練に合わせた保護者会の開催や、待機時間のスペース開放を行い、自然な会話や自己紹介の場を提供している。また、父母会の活動を尊重し、役員選出や会費管理、講師招聘やお別れ会の準備などを通じて、保護者同士が主体的に関わる機会を支えている。さらに、交流の場で偏見や誤解が生じないよう職員が適切に配慮し、子ども同士の関係性を守ることで、安心して参加できる環境づくりを進めている。こうした取組により、保護者の交流と相互の理解を支えている。</p> <p>ICT活用・迅速な連絡・防犯指導により保護者と協力して子どもの安全を確保している</p> <p>学童クラブでは、子どもの出欠席確認や安全確保のため、ICTツール「コドモン」の活用に加え、電話などをを用いて迅速に情報を共有している。連絡なしの欠席時には速やかに家庭へ確認を行い、場合によっては職員が迎えに向く対応もしている。また、引き渡し時には保護者以外の迎えがある場合は事前連絡を徹底し、本人確認を行った上で対応している。さらに、不審者対応訓練や防犯ブザーの作動確認を通じて子ども自身が身を守る力を養うよう指導している。こうした取組により、保護者と協力して子どもの安全を確保に努めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の資源を活用した安全と交流を支える一方で、主体的な取り組みの拡充が期待される</p> <p>学童クラブは、地域のイラストコンクールへの参加や児童館祭りでの出店など、地域資源を積極的に活用した活動を展開し、参加内容を記録として残している。また、学校やPTA、各スポーツ団体と連携し、土曜日の遊び場の活用や不審者情報、学級閉鎖時の対応を通じて、子どもの放課後の安全と健全な育成を支えている。一方で、子どもの多様な体験機会は外部からの呼びかけに応じる形が中心であり、今後は事業所自ら主体的に地域資源を発掘・企画し、子どもがより幅広い交流や学びを得られるような取り組みを広げていく工夫が期待される。</p> <p>児童館との出店や行事参加と共に、地域連携による双方向の交流を広げる工夫が望まれる</p> <p>学童クラブは、地域の児童館のお祭りへの出店や地域行事への参加を通じて、子どもが地域の多世代と関わりを持ちながら社会性を育む機会を作っている。こうした活動は地域の理解を深め、子ども自身が役割を果たす貴重な経験の場となっている。出店記録や日誌には参加者数、会場図、当日の様子、子どもと職員の関わりが記録されており、活動の振り返りに活かしている。また、移動児童館を通じた連携も継続されているが、学童クラブ自ら主体的に地域に呼びかける機会は少なく、今後は保護者や地域団体と協働し双方向の交流を広げる工夫が望まれる。</p> <p>地域の関係機関や団体との情報共有や協議を通じ、子どもの育成支援体制を築いている</p> <p>学童クラブでは、保育所や地域の関係機関・団体との情報共有を通じて、子どもの育成支援体制を整えている。入所前には保育園を訪問し、子どもの様子や配慮点を確認するとともに、ケース会議で支援方針を共有している。また、地域の四者連携会に参加し、地域課題の情報共有や検討を進め、協力関係を築いている。さらに、新BOPの連絡協議会にも継続的に出席し、学童クラブの運営状況や情報交換を図っている。こうした取り組みにより、地域とのつながりを深め、育成支援に資する情報連携体制を築いている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	毎日の子どものケガ防止に細心の注意を払いながら職員配置を検討している	
内容①	学童クラブでは、子どもの生活の中で起こりうるケガを最も重要なリスクと位置づけ、日々の職員配置について綿密に打ち合わせを行っている。各活動グループの担当職員や、要配慮・要支援の子どもに寄り添う職員をホワイトボードに掲示し、全員が常に確認できる体制を整えている。さらに、事務局長を中心に、子どもの様子や変化を即時に共有できるネットワークを構築し、ケガを未然に防ぐための支援や対応が職員間で共通認識として浸透している。これにより、日常的な見守りの質が高まり、安全な環境づくりが継続的に進められている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子ども達の自由な意見を集約し、行事や集団遊びに反映する取り組みが行われている	
内容②	子どもの自主性や自発性を尊重する取り組みとして、「夢ポスト」と名付けられた意見箱がBOP室に設置されており、2学期から子どもたちに説明のうえ活用が始まっている。子どもたちは記名式でやりたい遊びを書いて投函する。用紙はBOP室の紙を利用し、自由な形式で記載している。「ハンカチ落とし」や「こおりおに」など、子どもたちが過去に楽しかった遊びや、新たに挑戦したい活動を自由に提案しており、学童まつりに向けたお店のリクエストなども寄せられている。職員は子どもの声や想いを受け止め、日々の育成活動に反映させている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	ICT活用と保護者会を通じて、子どもの安全確保と家族の交流を支える運営をしている	
内容③	学童クラブでは、保護者と協力し子どもの安全と成長を支える取り組みを行っている。ICTを活用した出欠席確認や欠席時の迅速な連絡体制に加え、引き渡し時の本人確認を徹底し、必要に応じて職員が迎えに向くなど、安全確保に力を注いでいる。また、引き取り訓練後の保護者会を通じて交流の場を設け、父母会の活動を尊重することで保護者同士の主体的な関わりを支えている。交流の際に誤解や偏見が生じぬよう職員が配慮し、子どもと保護者が安心できる環境を整えている。こうした取り組みにより、家庭と協力した地域に根差す学童運営を行っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの居場所づくりに必要な職員体制とそのチームワークの重要性を認識し、日々の成育支援に反映させている
	内容	学童クラブでは、各学期の目標達成、事故防止、そして子ども一人ひとりへのきめ細やかな成育支援を実現するために、職員全体の高いチームワークが大きく寄与していると考えられる。職員同士が相互に信頼関係を築き、良い点は積極的に共有し、課題点についても率直に意見を交わすことで、健全で前向きな職場環境が整えられている。現場を統括する事務局長を中心に、職員が連携し合いながら、子どもたちが安心して過ごせる快適で楽しい居場所づくりに一丸となって取り組んでいる。
2	タイトル	日常の気づきや課題を職員間で共有し、外部の専門家の助言の活用と、連絡メモなどで情報を「見える化」することで、支援の質を高めている
	内容	学童クラブでは、限られた時間の中でも職員間の情報共有が継続的に行われている。日々のミーティングでは子どもの生活や行動に関する気づきや課題を出し合い、緊急性を要する事案は常勤職員の指示を得て全員で迅速に対応している。また、年間計画や行事や支援内容の振り返りをロングミーティングで確認し、心理士の助言を取り入れるなど外部の専門性を活用して支援の質を高めている。さらに、連絡メモや緊急時の簡易マニュアルを活用し情報の見える化を図る工夫もされ、職員が一体となって子どもへの支援につなげている。
3	タイトル	「フェスタ」では、子どもたちが考えた発表や出店を通して希望がかなえられ、創造性と主体性が発揮され子どもの成長を支えている
	内容	3学期に「フェスタ(新BOPの祭り)」が開催され、子どもたちはダンス、お笑い、マジック、歌、クイズ、作品展示など、やってみたいことを自由に発表している。占い屋、ネイル屋、ガチャガチャ屋などの店も子どもたちのアイデアで展開されており、意見箱を通じて希望が出されている。店の参加チェックには子どもたちの希望でスマートフォン型のポイントカードが導入され、デザインも子どもが担当している。保護者も手伝いを通じて参加し、子どもの様子を確認でき、共に成長を支えている。子どもの夢がかなえられ、創造性と主体性が発揮されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもや保護者に、学童クラブの目標やその達成状況について、共通認識できる仕組みづくりがされることに期待したい
	内容	事業所では、区が定める7つの目標を踏まえつつ、独自の視点で4つの方針を策定している。これらの方針に基づき、3学期ごとの目標を設定し、「新BOP便り」を通じて子どもや保護者へ伝えている。職員はこの目標を共通認識として日々の業務に取り組んでいるが、現状では子どもや保護者に十分に浸透していないとの認識がある。今後は、活動室内や入口などへの目標掲示や、学期ごとの振り返りを「新BOP便り」に掲載するなど、より多くの関係者が目標を意識できるような工夫が進められることに期待したい。
2	タイトル	記録や振り返り内容を業務マニュアルに反映し、手順書の活用を通じて、業務の標準化と共有の質を高める取り組みの推進が期待される
	内容	学童クラブでは、児童票や日誌などを活用し、子どもの情報を記録・共有する仕組みが整えられている。また、年度末の振り返りや年始の計画見直しを行い、活動目標や重点項目を確認しながら、危険予測や支援の改善に努めている。しかし、記録の方法や様式が職員ごとに異なる点や、手順書が活用場所に掲示されているのみである点など、蓄積された情報を体系的に整理・活用する仕組みは十分とはいえない。今後は、記録や振り返りの内容を業務マニュアルに反映させ、業務の標準化と共有の質を高めることが期待される。
3	タイトル	配慮が必要な児童に対し当該小学校とは連携を取りながら個別支援を行っているが、特別支援学校ともさらなる連携と協力関係が期待される
	内容	新BOPでは、配慮が必要な児童が多く在籍していることを踏まえ、小学校の担任や保育園、保護者との連携を図りながら、個々の児童に応じた支援が行われている。職員はミーティングを通じて対応方法を検討し、巡回相談の助言も受けている。その子が好きなものが入っている「安心ボックス」を導入するなどの工夫も行っている。一方で、特別支援学校に通う児童に関しては、学校との連携が十分に取れておらず、支援学校の担任とのやり取りが行われていない。今後は支援学校とも連絡を取り合い、子どもの学校での様子や成長を共有することが期待される。